

極秘

1175

一九三三年四月三十日

リットン報告書ニ對スル支那政府ノ意見書

(一九三二年十一月二十一日國際聯盟理事會ニ於テ
支那代表顧維鈞ノ發表セル文書)

在南京中華民國外交部情報局發行
宣傳パンフレット

朝鮮總督官房外事課 譯

朝鮮總督府

378 (0378

1175

「リットン」報告書ニ對スル支那政府ノ意見書

(一九三二年十一月二十一日國際聯盟理事會ニ於テ
支那代表顧維鈞ノ發表セル文書)

支那參與員ノ行動ニ對スル日本ノ妨害

支那政府ハ「リットン」卿一行カ九ヶ月間ニ亘リ熱心且公平ニ現地
ノ調査ヲ遂ケタ功績ニ對シ滿腔ノ敬意ヲ表スル次第テアル

シカルニ其ノ調査ニ際シテ日本官憲ハ調査團ニ隨行シタ支那參與員
ヲ嚴重ニ監視シ其ノ自由行動ヲ束縛シタノテ其ノ爲同參與員ハ聯盟
理事會ノ決議ニ依ツテ與ヘラレタル調査團ヲ援助スヘキ權能ヲ少カ
ラス妨害セララルニ至ツタノハ誠ニ遺憾ニ堪ヘナイ所テアル

支那參與員又ハ隨行員カ外出ノ時ハ數名ノ日本警官尾行シ奉天大和
ホテルニハ多數ノ日本警官カ警戒網ヲ張り支那參與員カ隣室又ハ食

朝鮮總督府

379 (0379

堂へ行ク時ニモ警官カ尾行シ參與員ノ訪問シタル室並ニ參與員ヲ訪問シタル者ノ數迄手帳ニ記入シテ居タ 支那參與員ノ隨員一部カ投宿シタル「オリエンタルホテル」ノ廊下ニハ十數名ノ警官カ並ヒ立テ同隨員カ外出スル時ニハ必ス私服警官カ尾行シ且警官ハ支那隨員ノ居室ニ自由ニ出入シテ長時間ノ質問ヲ爲スノカ常テアツタ 又支那參與員ハ警官ノ許可ナクテハ支那人又ハ外人トノ面會ヲ嚴禁サレテ居タ

支那參與員ハ吉林テハ銃劍附ノ日本兵ニ警護サレ又哈爾濱テハ多數ノ正私服警官ニ守ラレタ依テ同參與員ハ調査團同伴テ實地調査ヲ爲スコト又ハ支那側ノ證人ヲ調査團ニ紹介スルコト等ハ全ク不可能テアツタ 斯ノ如クシテ日本官憲ハ本當ノ證人ヲ隱蔽シテ自己推薦ノ人物ノミ調査團ニ紹介シテ自己ニ有利ナ證言ヲ陳述セシメタ

380

(0380

日本參與員カ南京、上海、漢口、北平其ノ他支那ノ各地ニ入ツタ時支那官憲ハ其ノ自由行動ヲ束縛シタコトナク同參與員カ日本人ノ證人ヲ調査團ニ紹介シタ時ニモ之ヲ妨害シタコトハナカツタ 然ルニ支那參與員カ支那ノ領土タル滿洲ニ入ツタ時日本官憲カラ斯ノ如キ不當ノ待遇ヲ受ケタノハ奇怪千萬ナ事デアル

→日本ハ支那ノ統一ヲ妨害ス

日本ハ動モスレハ支那ヲ指シテ無政府トカ無統一トカ云フテ勝手ニ支那ヲ痛罵スルカ支那ノ統一ヲ妨害スルモノハ他ニ非ス日本デアル先年有名ナ日本ノ政治家後藤男ハ其著書「滿蒙ニ於ケル日本人ノ活躍」ノ中ニ日本ハ中華民國ノ建國劈頭ニ於テ東三省ニ獨立王國ヲ建設セシメントシ當時略々全國統一ノ偉業ヲ完成シタ袁世凱政府ノ顛覆陰謀ヲ企テ大倉喜八郎ハ清朝肅親王ニ獨立運動資金ヲ提供シ第五

381

(0381

29

1175

トカ排外運動ヲ煽動スルトカ云フケレトモ實際最近二十年間支那ノ
 外國貿易額ハ十五割八分増加シ(一九一一年ハ四〇〇〇〇〇〇〇〇
 一ル)、一九二一年ハ五〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇
 一ル)「テール」(世界經濟界ニ大貢獻ヲ爲シタノ
 テアル
 日本ハ支那カ國際條約ヲ無視スルト云ツテ憤慨スルカ日本コソ聯盟
 規約、不戰條約、九ヶ國條約等ヲ悉ク蹂躪シ聯盟ニ對シテハ即時撤
 兵シテ滿洲ノ事態ノ惡化ヲ防止スル旨誓ツタノニモ拘ラス今ニ至ル
 迄其ノ約束ヲ履行シナイ
 日本政府ニ誠意カナイノカ ソレトモ軍部ニ統御スル實力カナイノ
 カ其ノ何レカト云フ事ハ別問題トシテモ兎ニ角日本ハ聯盟及全世界
 ニ多大ノ迷惑ヲカケテ居ルノハ事實テアル

383 (0383

朝鮮總督府

28

1175

聯隊長土井大佐ハ袁世凱打倒軍ノ指揮官トシテ多數ノ日本將校ヲ支
 那ヘ連レテ來タト正直ニ書イテアル
 一九二七、八年(昭和二、三年)ニ日本ハ自國民保護ヲ口實ニシテ
 濟南ヘ軍隊ヲ派遣シ蔣介石將軍ノ北上ヲ妨害シタ 時ノ田中首相ハ
 「若シ京津地方ニ動亂波及スレハ帝國政府ハ滿洲治安維持ノタメ機
 宜且有效ノ措置ヲ取ルヘシト威嚇的警告ヲ發シタ其ノ他張作霖ノ列
 車カ日本守備隊ノ警備セル滿鐵某地點ノ鐵橋ニ差掛ツタ時之ヲ爆破
 シテ張作霖ヲ暗殺シタ事件モ張學良カ青天白日旗ヲ掲揚シタ時林總
 領事ト佐藤少將カ學良ニ抗議シテ田中首相ノ命令テアルカラ是カ非
 テモ其ノ旗ヲ掲揚スヘカラスト威嚇シタ事件モ偏ニ支那統一ヲ妨害
 スル行爲テハナイカ
 日本ハ世界ニ對シテ支那ノ逆宣傳ヲナシ「ボイコット」ヲ獎勵スル

382 (0382

朝鮮總督府

31

要スルニ西郷隆盛以前カラ日本ニハ征韓論及支那分割論カ擡頭シテ居タノニ鑑ミレハ今日ノ大陸政策ノ實行ハ決シテ一朝一夕ノ偶然事テナク根サス所深キ日本ノ國策テアル

山梨陸相ハ一九二二年(大正十一年)ノ春議會ニ於テ「今迄我國ト緊密ナ關係ヲ結ンテ來タ某國(英國)ハ同盟條約ヲ破棄セントシテ居ル 今度戰爭カ起レハ日本ハ經濟封鎖ノ脅威ヲ受ケルテアラウ其際ニ於ケル食糧及軍需品ノ不足ヲ豫防センカ爲ニハ日本ハ大陸(支那及西比利亞)ヲ占領シテ置ク必要カアル」ト大氣焰ヲ吐イタ

今日日本ハ恰モ蠍カ爪ト尾ノ兩方カラ其ノ餌食ヲ攻撃スル様ニ南北兩方カラ支那ヲ攻撃シ亞細亞大陸征服ノ歩武ヲ着々進メテ居ル

日清戰爭講和談判ニ於ケル遼東半島及臺灣ノ割讓強要、一八七九年(明治十二年)琉球列島ノ占領、日露戰爭以後南滿ノ占領及朝鮮併

朝鮮總督府

30

日本ノ大陸政策

日本ノ大陸政策ナルモノハ即チ亞細亞大陸ノ征服ヲ意味スルモノテアツテ十六世紀ニ於テ既ニ豐臣秀吉ハ支那征服ヲ決意シ朝鮮王ノ國書ニ對スル回答ノ中ニ「吾人此ノ世ニ生ヲ享ケ百年ノ長壽ヲ保ツ者少シ何ソ此ノ小島ニノミ踰躋シ終ルヘキカ貴國ヲ經テ明國ヲ征服スルハ余ノ生涯ノ大望ナリ 天皇陛下ハ貴國カ我國ニ使節ヲ派遣シ貴我兩國ノ國交ヲ篤ウセントスルヲ嘉シ給ヘリ希クハ日本カ明國ニ出兵スルニ際シテハ朝鮮モ亦兵ヲ出シテ我ヲ助ケ給ヘヨ」ト述ヘテ居ル 又十九世紀ノ肥前佐賀藩主鍋島氏ノ建白書ニモ「蠻人征伐ハ將軍ノ使命ニシテ日本ノ一貫セル政策テアルカ日本國民ハ之レ迄長イ間平和ニ暮シ軍ノ士氣モ沮喪シテ居ル今ヤ我國威ヲ海外ニ宣揚シ以テ將軍ノ頌勢ヲ挽回スヘキ絶好ノ機會テアル」トアル

朝鮮總督府

合一九一一年（明治四十四年）漢口出兵、一九一四年―一九二二年（大正三年―十一年）ノ山東占領、一九一五年（大正四年）ノ二十一個條條約ノ強要、西比利亞撤兵ノ躊躇、一九二七年―一九二八年（昭和二、三年）ノ濟南出兵、一九三一年（昭和六年）九月十八日以降奉天其ノ他都市ノ攻撃竝ニ全滿洲占領 是等ハ何レモ日本ノ大陸行進曲ノ一節ヲナスモノテアル

日本ハ一九〇七年、一九一〇年、一九一二年、一九一六年（明治四〇年、四三年大正元年、五年）ニ滿蒙分割ニ關シ露國ト密約ヲ締結シ一九一七年（大正六年）山東ト南滿洲ニ關シテ列強ト秘密文書ノ交換ヲ爲シタノハ未タ吾人ノ記憶ニ新ナル所テアル

日本ノ大陸侵略ハ支那國民ノ日夜脅威ヲ感スル所テアリ且世界ノ平和ヲ攪亂スルモノテアル 斯ノ如ク日本軍閥ハ絶エス支那統一ヲ妨

朝鮮總督府

害シ特ニ目下洪水及共匪討伐テ國力疲弊シテ居ル支那ノ慮ニ乘シ益々支那内亂ヲ助長シツツアルノハ遺憾ニ堪ヘナイノテアル然シ日本ノ大陸政策ハ決シテ滿蒙ノミ局限サレタモノテハナイ 滿洲事變勃發前日本各新聞カ論題トシタ例ノ田中大將ノ上奏文ノ内容ヲ見レハ支那ノ東三省占領ハ日本ノ世界征服計畫ノ一階段ニ過キズイ

即チ同上奏文ニ曰ク「將來帝國カ支那ヲ占領セント欲セハ幾ニ露國ヲ擊破セル如ク先ツ米國ヲ粉碎セネハナラヌ然シ支那ヲ征服スルニ付テハ第一滿蒙ヲ征服セネハナラヌ若シ帝國カ支那征服ニ成功スレハ亞細亞各國及南洋群島ハ帝國ニ降服スルテアラウ 其ノ時全世界ハ東亞ハ日本帝國ノモノタルコトヲ承認シ敢テ我權益ヲ侵略スルコトカ出來ナイテアラウ

之ハ明治天皇ノ遺訓テアツテ之カ成功ハ我國家存立ノ絶對的要素テ

朝鮮總督府

アルト

右に上文カ今日日本人ノ精神並ニ行動ヲ完全ニ支配シテ居ルト云フ事ハ一點ノ疑惑ヲ容レナイ

一九一九年(大正八年)北一輝氏ハ日本少壯派將校ノ「バイブル」トモ云フヘキ國家改造案ヲ提唱シタカ其レニ依ルト「帝國ヲ自國ノ防禦又ハ被壓迫民族解放ノタメ宣戰及開戰スル權利カアル例ヘテ言フナラハ印度ヲ英國カラ救ヒ支那ヲ列國ノ壓迫カラ解放スルコトハ吾國ノ權利テアル又國家ハ廣漠タル大領土ヲ有シ正義人道ニ悖ル統治ヲ爲ス國トモ決戰スル權利カアル即チ滿洲ヲ英國ヨリ又西比利亞ヲ露國ヨリ奪ヒ去ラネハナラヌ」ト説イテ居ル

又荒木陸相ハ最近陸軍俱樂部雜誌階行社ニ「東洋各國ハ白人ノ壓迫ニ苦シンテ居ル日本ハ横暴ナ白人ヲ膺懲シナケレハナラヌ日本人ハ正

朝鮮總督府

(0388

388

朝鮮總督府

義人道ノ體現タル皇道ヲ無視スル列強ノ行動ニハ絶對的ニ反對セネハナラヌ 東洋ヲ禍亂ニ陥レル事ハ皇道ノ根本精神ニ背馳スルモノテアツテ斷シテ日本ノ容認シ難イ所テアル一旦東洋ニ禍亂カ起キタ時ニハ日本人ハ總動員テ武力ニ訴ヘテテモ秩序回復ニ努力スヘキテアル」ト大ニ氣焔ヲ擧ケテ居ル

日清戰爭カ日本ノ挑發ニ依ツテ起キタト云フ事ハ時ノ外相陸奥宗光氏ノ秘録ニ依ツテモ證明サレル即チ一八九四年(明治二十七年)六月日本ハ大部隊ノ陸海軍ヲ朝鮮ニ派遣シ在京城日本公使大島圭介氏統帥ノ下ニ置イテ戰鬪準備ヲ整ヘタ然シ日本ノ期待ヲ裏切ツテ京城ノ時局ハ全ク靜穩ニ歸リ清國ニ戰爭ヲ挑ム時期ヲ失フ虞カアツタ爲陸奥外相ハ大島公使ニ「決戰ノ日ハ來タ如何ナル口實ヲモ使ツテ至急積極的行動ヲ開始セヨ」ト嚴重ニ電命シタ

389

0389

尙同秘録中ニハ「日本ハ軍事行動ニ於テハ必ス攻勢ヲ取り外交ニ於テハ恰モ敵ノ挑發ニ依リ萬止ムナク應戰シタカノ如ク粉飾辯明シナケレハナラヌ」ト書イテアル

日本ハ當時朝鮮ニ使ツタ手段ヲ今日滿洲ニ用ヒテ居ル 日本ハ侵略的ナル自己ノ軍事行動ヲ辯解スルタメ盛ニ口實ヲ作り世界ノ輿論カ其レヲ信シテモ信シナクテモ自己ノ既定方針ニ向ヒ奮進シテ居ルノテアル

四、ボイコット

日本ハ支那ノ「ボイコット」ニ反感ヲ持ツテ居ルカ「リットン」報告書ニモアル通り「ボイコット」ハ自衛手段ニ外ナラナイノテアル

最近二十五年間ニ日貨排斥事件ハ凡ソ九回モアツタ然シ其ノ因果關係ヲ深く探究スレハ其ノ原因カ何方ニアルカ判明スルテアラウ

朝鮮總督府

36

支那ハ外國ヨリ經濟上又ハ國權上ノ侵害ヲ受ケタ場合ハ必ス「ボイコット」ヲ以テ之ニ復讐スルノテアル例ヘハ一九三一年（昭和六年）ノ「ボイコット」ハ同年六月滿濟山事件後七月ニ朝鮮ニ於テ朝鮮人カ支那人ヲ虐殺シタコトニ發端シ滿洲事變並ニ上海事變ニ依テ一層激烈ニナツタノテアル茲ニ特記スヘキハ問題ノ支那人虐殺事件テアツテ一九三一年七月三日ヨリ十三日ニ至ル十日間ニ亘リ朝鮮七ヶ所ニ暴行事件カ起リ其ノ虐殺ハ日本警察官ノ教唆ニ依ツタモノテアルカサモナケレハ其ノ默許ノ下ニ斷行サレ支那人ニシテ慘殺サレタ者一四二人、失踪者九一人、重輕傷者五四六人ヲ生シ財産ノ損害額ハ四百萬圓ニ達シタ又例ノ上海事件ニ依ル支那人死傷者ハ二四、〇〇〇人、財産ノ損害額ハ十五億圓ヲ超エテ居ル

目下滿洲ニ於テモ日本軍ハ支那良民ヲ殺戮シ財物ヲ破壊シテ居ル

朝鮮總督府

余（顧維鈞）カ昨年五月中旬調査團ト哈爾濱ニ行ツタ時上海ヨリ晝夜兼行テ大至急移動シテ來タ日本軍第十四師團ハ我々ノ「ホテル」ノ窓ノ下迄其ノ銃劍ヲ閃カセ轟然タル大砲ノ響駭然タル機關銃ノ音ハ四方ニ起リ至ル處ニ小銃ノ火花カ炸裂シ我々ノ目前テ侵略的戰爭カ行ハレテキタ斯ノ如ク日本軍ハ血染ノ旗ヲ掲ケテ晝夜支那人ヲ殺戮シテイル見ルモノ聞クモノ皆悲惨殘虐ヲ極メテ居ルカ然シ何人モ之ヲ止メルコトハ出來ナイノテアツタ今日支那ノ「ボイコット」ハ日本ノ軍事行動ニ對スル支那國民ノ示威運動並ニ復讐テアル然シ「ボイコット」ノ爲支那人モ大損害ヲ蒙ルノハ勿論テアルカ國家ノ自衛ノ爲ニハ多少ノ犠牲ハ止ムヲ得ナイノテアル但日本國民ノ財産タル物品ハ決シテ沒收シタコトナク若シ間違ツテ差押ヘタモノカアツタトシテモ必ス後カラ其ノ所有者ニ返シテ居ル

「ボイコット」カ支那國民ノ愛國心ノ表現テアリ且侵略ニ對スル合法的自衛手段テアル以上中央政府ハ之ヲ無理ニ彈壓スルコトハ出來ナイ仍テ地方官憲ニ嚴命シ合法的範圍内ニ於テ其ノ運動ヲ指導セシメルト同時ニ日本人ノ生命財産ハ極力保護セシメタ支那政府カ斯ノ如ク努力シタ結果滿洲事變ノ際日本人ハ身體財産ニ何等損害ヲ受ケスニ濟ンタノテアルコレハ「リットン」報告書モ明カニ認メテ居ル處テアル

日本ハ「ボイコット」ノ責任ヲ支那政府ニ負ハセルコトニ汲々トシテ居ルカ日本カ支那本部並ニ滿洲ニ於テ計畫的侵略行動ヲ恣ニスル以上支那カ之ニ對シテ凡ユル抵抗手段ヲ講スルノハ當然テアツテ之ハ合法的自衛行動ニ外ナラナイノテアル

然ラサレハ日本軍ハ何處ニテモ攻込ミ占領後ソレヲ既成事實テアル

ト主張シテ支那人ヲ追拂フテアラウ 故ニ我國土ヲ守ル爲メ聯盟ノ
 裁決カアル迄抗日ヲ續ケタ譯テアル
 假令「ボイコット」カ侵略國ニ對シ打撃ヲ與ヘルニセヨ其レハ流血
 ノ慘禍ヨリハ勝ツテキル 支那ハ平和主義テアルカラ暴力ニ對シ暴
 力ヲ使ウコトナク平和的手段ヲ採ツタノテアル「ボイコット」ニ依
 ル日本ノ損害額ハ幾何カ果シテ其レハ滿洲、上海、天津、各事變ニ
 於テ支那ノ受ケタ幾萬ノ生靈、幾十億ノ財貨ニ對スル損害ト比較ニ
 ナルテアラウカ 然シ支那ハ飽ク迄モ平和ヲ愛好スルカラ日支問題
 ヲ聯盟ノ仲裁ニ任シ「ボイコット」モ之ヲ公ニ獎勵ハシナイケレト
 モ聯盟ノ裁斷カ遲イ故問題カ解決サル迄「ボイコット」ノ手段ニ
 訴ヘサルヲ得ナカツタノテアル
 近時世界的不景氣ニ鑑ミ列國ハ相競ツテ禁止的關稅ヤ輸入制限策ヲ

實施シテキル 若シ之ヲ外國ノ經濟的侵略ニ對スル自衛手段テアル
 ト云フナラ軍事的侵略ニ對シ「ボイコット」ヲ以テ對抗スルノハ全
 ク正當テアル
 日本ハ支那ノ「ボイコット」ハ日支間ノ親善關係ヲ害シ且條約ニ違
 反スルモノテアルト云フカ其レニ答ヘル前ニ先ツ日本ニ質問シタイ
 朝鮮ニ於テ多數ノ支那良民ヲ虐殺シ何等正當ノ理由ナクシテ支那領
 土ニ出兵シテ滿洲上海其ノ他ヲ攻撃シ無辜ノ支那良民ヲ屠リ財物ヲ
 破壊シタノハ支那ニ對スル親善テアルカ日本ハ自ラ條約ヲ蹂躪シ不
 法行爲ヲ恣ニシナカラ何故支那ニノミ條約履行ヲ強要スルカ
 英國國民黨ニ對スル日本ノ誤解
 日本ハ動モスレハ支那國民黨ハ排外ヲ目的トスルカノ如ク論スルカ
 國民黨ノ主義ハ從來ノ支那ノ國際的地位ヲ向上セシメテ列國ト比肩

セシムルカ爲不平等條約等ヲ破棄スル事ヲ強調スルニアル國民主義ノ最高理想ハ結局全世界各國ヲ以テ團結セル利害共通ノ一大家族ヲ造ルニアリ決シテ排外主義ヲ目的トスルモノテハナイ然シ支那ノ征服及占領ヲ目的トスル日本ノ傳統的政策ハ支那全國民ノ敵愾心ヲ挑發スルモノテアツテ「リットン」報告書ニモ近年日本ノ對支要求ハ他ノ列強全體ノ對支要求ヨリモ支那ノ愛國心ヲ挑發シテ居ルコトヲ認メテ居ル

現在支那在留外國人ハ三萬〇〇〇人、外國商社ハ八二〇〇個所アツテ其ノ中宣教師ニ一七〇人ハ支那ノ奥地迄入ツテ居ルカ別ニ困難モナク平和ニ暮シテ居ル

勿論支那在留日本人モ地方官憲カ充分保護シテ居ルノハ贅言ヲ要シナイ所テアル

又目下支那中央政府ハ各部ヲ通シテ四十名ノ外國人専門家（八ヶ國

人）ヲ招聘シ海外ノ新智識ヲ利用シテ支那ノ發展ヲ圖リ特ニ近年ニ至ツテハ聯盟ヨリ専門家ヲ招聘シ教育、衛生、治山治水及農蠶業ノ改良發達ニ努メテ居ル若シ日本ノ云フ通り支那ニ排外思想カ溢レテ居ルトスレハ上述ノ如キ協調ハ出來ナイ筈テアル

六 武力解決ハ日本ノ「スローガン」

日本ハ三百件ニ餘ル滿蒙懸案ヲ満足ニ解決センカ爲止ムナク武力ニ訴ヘタノテアルト云フカ「リットン」報告書ニモアル通り懸案ヲ平和的ニ解決スル途ハ全然ナイ譯テハナイ然シ懸案解決上必要アラハ武力ニ訴ヘルト云フ言葉ハ日本朝野ノ「スローガン」トナリ陸軍省參謀本部及關東軍ノ武力解決ニ關スル方針ハ日本新聞ニモ詳細報道セラレ特ニ在奉天特務機關長土肥原大佐ハ滿洲事變直前東上シタカ大佐ハ武力解決論者ノ急先鋒テアツタ

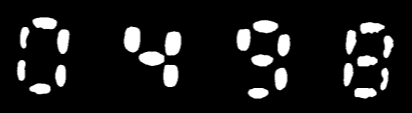
朝鮮總督府

日本ハ九月十八日ノ夜十時頃支那兵カ奉天附近ノ滿鐵線路ヲ爆破シ
 タト云フカ夫レハ全ク日本ノ創造シタ口實テアツテ「リットン」報
 告書ハ日本ノ陸相カ關東軍ニ直接行動ヲ激勵シタコト滿洲事變直前
 奉天附近ニ於ケル日本軍カ夜間演習ヲナシタコトソレニ續イテ勃發
 シタ九月十八日夜ノ事變ヲ縷々詳述シテ日本カ當夜ノ爆發事件ヲ以
 テ自衛權發動ノ原因ナリトスル主張ヲ認メス且又日本ノ云フ懸案モ
 聯盟仲裁ニ委任シテ平和的手段ヲ以テ解決スヘキモノテアルト説イ
 テ居ル

然シ日本ハ飽ク迄モ武力ヲ濫用シ錦州迄爆發シ又奉天ノ交通大學ニ
 移轉シタ奉天省政府、赤十字旗ヲ掲揚シタ病院、停車場及其ノ他非
 武装地域ヲ爆撃シ市中ノ大建物ニ機關銃ヲ浴セカケテ南滿ノ治安維
 持ニ當ルヘキ支那政府ノ各機關ヲ破壊シ錦州、吉林其ノ他滿洲ノ各

朝鮮總督府

地方ノ支那官公署ヲ擊破シテ然モ常ニ滿洲ノ無秩序ヲ責メテイル
 故犬養首相ハ一九三一年(昭和六年)十二月迄「日本ハ假令無償テ
 アツテモ滿洲ヲ併呑シヨウ等ト云フ考ハ持タナイ」ト斷言シテ居ル
 カ一方日本軍閥ハ同年十月八日錦州ヲ爆撃シ東三省ヲ占領シテ益々
 日支紛争ヲ惡化セシメ且聯盟規約ヲ蹂躪シタ 日本代表ハ滿洲事變
 發生後九月三十日及十二月十日聯盟ニ對シ事件擴大ヲ防止スヘキ旨
 ヲ聲明シタニモ拘ラス上海迄爆撃シタ 勿論上海テ支那軍カ勇敢ニ
 日本軍ニ應戰シタ爲列國ハ支那軍ノ頑強ナ抵抗力ヲ認メテ居ル其ノ
 後日本軍ハ上海テ見事失敗シタ怨ヲ晴ラス爲早速滿洲國ヲ承認シタ
 ノテアルカ滿洲國ハ滿洲人ノ獨立運動ニ依ツテ成立シタモノテナク
 日本ノ企ンタ芝居テアルコトハ今更贅言ヲ要シナイ處テアル
 滿洲問題ノ最後ノ裁決ハ來ルヘキ總會ニ於テ下サレルテアラウカ支



1175 極秘

一九三三年七月一日

滿洲國ハ如何ニシテ生レタカ

在南京中華民國外交部情報局發行
宣傳パンフレット

朝鮮總督官房外專課 譯

401 (0401

朝鮮總督府

1175

那政府ハ問題解決ノ基礎ハ「リットン」報告書ノ勸告ヲ主トシ聯盟
規約、巴里條約、華盛頓九ヶ國條約等ニ定ムル處ヲ實現スルニアル
ト信シテ居ル要スルニ日本ハ其ノ侵略ニ依ツテ得タ果實ヲ享有スヘ
キモノニ非ス又支那ハ日本ノ侵略ニ依リ既ニ受ケタ一切ノ損害ニ對
シテハ賠償請求權ヲ有スルモノテアル

朝鮮總督府

400 (0400